

を理解したうえで宗学を立て直そうという目的で講義が進められた。

33 天路歷程 1冊

紙本印刷 中国・清時代(19世紀)
大谷大学図書館蔵

護法場で研究されたテキスト類の一つ。17世紀のイギリスの宗教家・作家であったジョン＝パニヤン(1628～1688)の著作。一人のキリスト教信仰者の歩みを苦難にみちた巡礼の旅に託して描いたもので、世界で広く読まれたという。



34 馬太福音書(マタイによる福音書) 1冊

紙本印刷 中国・清時代(19世紀)
大谷大学図書館蔵

護法場で研究されたテキスト類の一つ。キリスト教の正典である『新約聖書』を構成する4福音書の巻頭に位置する書。イエスの系図・誕生から受難・復活までの生涯を記す。

35 古事記伝 1冊

紙本印刷 天保15年(1844)
大谷大学図書館蔵

護法場で研究されたテキスト類の一つ。国学者・本居宣長の代表的著作で『古事記』の研究書である。神道国教化が進められるなか、神道思想や理論に対応するために研究がなされた。

36 論語 1冊

紙本木版 江戸時代(19世紀)
大谷大学図書館蔵

護法場で研究されたテキスト類の一つ。孔子の言行や門人との対話を記したもので、内容は処世の道理、国家・社会的倫理に関する教訓、政治論、門人の孔子観など多岐に渡る。

37 須弥界義 1冊

紙本木版 安政3年(1856)
大谷大学図書館蔵

護法場で研究されたテキスト類の一つ。浄土真宗僧侶・靈遊の著作。靈遊は江戸時代後期の高倉学寮で学んだ学僧で、西洋天文学に対し、仏教の宇宙観・世界観である須弥山説の正統性を主張し、「須弥界図説」「日月西行舩」などを著した。

38 巖如上人御一代記 1冊(11冊のうち)

紙本墨書 弘化3年(1846)～明治15年(1882)
大谷大学図書館蔵

弘化3年～明治15年までの東本願寺宗門の動向を、諸資料により編年で記したものである。編者は不明だが、本書は大谷大学第3代学長・佐々木月樵の書写になる。当時の学寮の動向も詳しく記されている。

39 關影院空覚像 1幅

紙本著色 明治～大正時代(19～20世紀)

護法場を統括した關影院空覚(1804～1871)の肖像。幕末・維新の激動期にあつてキリスト教対策の重要性を訴え、仏教再興のために活動した。明治4年(1871)10月、宗門改革推進の中心人物と目された空覚は何者かに暗殺された。



40 伝・關影院空覚所用の蓑 1枚

蓑 江戸～明治時代(19世紀)

護法場を統括した關影院空覚が使用していた遺品と伝えられる蓑。

41 剣先の図 1舗

紙本墨書 文化5(1808)

文化5年(1808)に建立された嗣講寮の図。その土地の形状から「剣先寮」と称された。明治4年(1871)10月3日、空覚はこの剣先寮で生涯を閉じることとなった。

ご来館にあたってのお願い

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下についてご理解とご協力をお願いします。

【ご来館の前に】

- HPに掲載している「入構セルフシート」を事前に印刷・ご記入のうえお持ちください。ご用意が難しい場合は北門門衛所にもございますので、北門門衛所にてお声がけください。
- 以下の方のご入館はお断りします。体調観察等にご協力ください。
 - ・本人または同居する人が息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、発熱や咳、味覚・嗅覚の異常等の強い症状の少なくとも1つ以上入館予定当日の朝からさかのぼって14日の間にある場合
 - ・本人または同居する人が過去14日以内に新型コロナウイルス感染症罹患者と接触のある場合
 - ・本人または同居する人が過去14日以内に渡航歴がある場合

【ご来館の際は】

- 北大路通に面する北門の守衛所に「入構セルフシート」をご提出ください。構内巡回等で守衛所が無人の場合は博物館受付にご提出ください。
- 入構時に検温をお願いします。37.5度以上の発熱が確認された場合は、入構をお断りします。
- 図書館や学内食堂等、博物館以外の学内施設の利用はできません。
- マスクの着用をお願いします。着用いただけない方は入構できません。
- 手指消毒にご協力ください。
- 他の来館者との距離を保ち、会話はお控えください。
- 展示物・展示ケース等にお手を触れないようにお願いします。
- 展示室内が混雑する場合は、入館までお待ちいただくことがあります。予めご了承ください。

■新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、臨時休館となる場合がございます。ご来館前に当館ホームページで最新情報をご確認ください。

個人情報の取り扱いについて

ご提出いただいた個人情報は、大谷大学博物館への入館手続きおよび新型コロナウイルス感染拡大防止のために利用します。当館利用者に感染が確認された場合等、必要に応じて保健所等の公的機関に情報を提供することがあります。なお、連絡先等については厳重に管理し、適切な方法により廃棄いたします。



- 地下鉄烏丸線「北大路」下車、6番出口すぐ
- 市バス「北大路/バスターミナル」、「下総町」、「北大路駅前」下車
- 駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。ただし、身障者用の車の場合は事前にご連絡ください。

大谷大学博物館

Otani University Museum

〒603-8143 京都市北区小山上総町 響流館1F
Tel.075-411-8483 Fax.075-411-8146
https://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

大学の前身 学寮の時代

二〇二三年度春季企画展

大谷大学のあゆみ



東本願寺御境内町絵図



光遠院空覚像

2023
4.1 sat - 5.13 sat

開館時間：10:00—17:00(入館は16:30まで)

休館日：日・月曜(ただし5/8(月)は開館)、5/4(木祝)・5/5(金祝)

観覧料：無料

後援：エフエム京都

大学寮の前身学寮の時代

大谷大学の前身である東本願寺の学問機関「学寮」は、江戸時代の寛文5年(1665)、東本願寺飛地境内の涉成園(枳殻邸)内に創設されました。宝暦5年(1755)に高倉の地に移転してからは「高倉学寮」と称され、江戸時代の宗学研究・研鑽の場として隆盛し、全国寺院子弟らの教育の場として発展しました。

明治維新时期には、激動の時代の要請に応える「護法場」が設けられ、国学・儒学・天学(天文地理)・洋教(キリスト教)などを広く研究したうえで、仏教を学ぶ場となりました。

本展覧会は「1 学寮の創設と高倉移転」、「2 講師と近世宗学」「3 維新の動乱と護法場」の3つのテーマで構成しています。大谷大学の基礎を築いた先学たちの尊い営みの一端を感じていただければ幸いです。

1 学寮の創設と高倉移転

東本願寺の学寮の敷地図

高倉通魚棚に移動した学寮の敷地図

高倉通魚棚に移動した学寮の敷地図

高倉通魚棚に移動した学寮の敷地図

01	琢如上人像	1幅
	絹本着色	江戸時代(18世紀)
	東本願寺第14代・琢如上人(1625～1671)の御影(肖像)。寛文5年(1665)にはみずからが隠居した涉成園(枳殻邸)のなかに学寮を創設し、教学振興をはかった。	

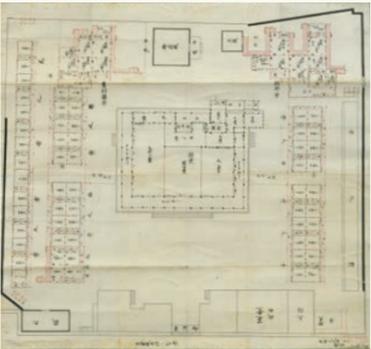
02	高木宗賢（平野屋五兵衛）像	1幅
	絹本着色	江戸時代(19世紀)
	大坂で両替商を営んだ有力商人・高木宗賢の肖像。宗賢は篤信な真宗門徒で、延宝6年(1678)涉成園内西側に学寮の講堂が建立された際には、経蔵1棟を寄進した。	

03	東本願寺御境内町絵図	1冊
	紙本着色	元文5年(1740)
	学寮の位置が示された最も古い絵図。大谷大学の前身である東本願寺学寮は寛文5年(1665)に東本願寺寺内に創設され、やがて延宝6年(1678)に涉成園内の西側(絵図右側)に移転された。	

04	高倉学寮諸制条	1冊
	紙本墨書	江戸時代(19世紀)
	大谷大学図書館蔵	
	創設期から幕末にいたる高倉学寮の諸規則を集成した記録。14の規則に加え、「入寮願」や「副講願」など願書の書式も記されている。展示箇所は学寮創設時の規則「寛文年中御壁書之写」で、受講の心得が記されている。	

05	惠然建議写（『大学寮沿革記』）	1冊
	紙本墨書	明治時代(19世紀)
	大谷大学図書館蔵	
	宝暦4年(1754)、第2代講師・惠然らが出した、学寮の設備・組織全般に関する意見書の写し。この建議をきっかけに、学寮は高倉通魚棚の地に移転し、翌5年(1755)新しい学寮が竣工した。	

06	高倉学寮敷地図	1幅
	紙本墨書	江戸時代(19世紀)
	高倉通魚棚に移動した学寮の敷地図。この地は真宗大谷派(東本願寺)の旧高倉会館(京都市下京区)にあたる。寮は7棟70室あったが、人数制限のため、町家に下宿して通う所化(学生)も多かったとされる。	



07	入寮制条	1冊
	紙本墨書	安政元年(1854)～明治元年(1868)
	学寮に入寮する所化(学生)が守るべき規則を記したものの。規律を守り学問を第一にすること、それが守られなければ退寮となることなどが定められている。	

08	高倉学寮席札	2枚
	木造	江戸時代(19世紀)
	高倉学寮の知事職をつとめた即印と、所化(学生)南溟の席札。いずれも裏面には「六条御殿学寮」の焼印が捺される。	

09	夏安居日記	1冊
	紙本墨書	慶応2年(1866)～4年(1868)
	安居期間中の知事所事務日記。安居とは、インドの雨期に釈尊の教団が勉学に励んだことに由来するもので、学寮では一定期間の集中講義としておこなわれた。	

10	春秋安居日記	1冊
	紙本墨書	慶応2年(1866)～4年(1868)
	春秋安居期間中の知事所事務日記。学寮での教育は夏安居を中心に、講師・副講・擬講による講義で進められたが、のちに夏だけでは不十分として、春・秋2季の安居が加えられた。	

11	上首寮日記	1冊（5冊のうち）
	紙本墨書	文政6年(1823)～明治5年(1872)
	高倉学寮の事務長とも言うべき上首が、文政6年(1823)から明治5年(1872)まで書き継いだ学寮の日記。学寮の諸行事や建前の修繕、所化(学生)の動向がうかがえる史料。	



12	高倉学寮御出入方名簿	1冊
	紙本墨書	文化6年(1809)～明治5年(1872)
	高倉学寮へ出入りする本屋・筆屋・衣屋・肴屋など様々な業者の名簿。文化6年(1809)から明治5年(1872)まで書き継がれている。	

13	入寮著帳証印	1冊
	紙本墨書	安政2年(1855)～明治時代(19世紀)
	学寮に参集する僧の出身地を記した記録。所化(学生)は懸席年数や出身国郡村名、宿所などを上首寮で記帳する規定となっていた。安政2年(1855)から明治初期まで、計1560人分が記載されている。	

14	越中国著隸名簿	1冊
	紙本墨書	文久3年(1863)～明治24年(1891)
	学寮に参集する僧の出身国別にまとめられた名簿。夏安居の際に記帳されたもの。本史料には越中国(現富山県)の出身者がまとめられている。このように学寮には全国各地より所化が集っていた。	

2 講師と近世宗学

初代講師・徳龍(1772～1858、越後国無為信寺)の肖像。弘化4年(1847)講師に任じられた。法相・三論・華嚴・天台・真言などの諸宗学に通じた。文政6年(1823)の東本願寺焼失後各地で布教し、募財活動にも尽力した。

第10代講師・徳龍(1772～1858、越後国無為信寺)の肖像。弘化4年(1847)講師に任じられた。法相・三論・華嚴・天台・真言などの諸宗学に通じた。文政6年(1823)の東本願寺焼失後各地で布教し、募財活動にも尽力した。	
--	--

25	香樹院教訓集	1冊
	紙本印刷	明治41年(1908)
	大谷大学図書館蔵	
	徳龍の教訓集。徳龍は世俗倫理を著した学僧として江戸時代随一とされる。本書は徳龍の五十回忌に合わせて編集・発刊された。	

26	香樹院勤儉座談	1冊
	紙本印刷	大正2年(1913)
	大谷大学図書館蔵	
	徳龍の講話書。世俗倫理を著した学僧としては、江戸時代随一とされる。本書は徳龍の講話をもとに編集されたもの。	

27	大方広仏華嚴経(黄檗版大藏経)	3冊(276帙のうち)
	紙本木版	寛文11年(1671)
	大谷大学図書館蔵	
	高倉学寮で学び、後代になって講師を追贈された丹山順芸(1785～1847、越前国淨勝寺)が、本山の命を受け、文政8年(1825)より10数年の歳月をかけて、建仁寺蔵の高麗版と対照して校合した黄檗版大藏経。文政10年(1827)～天保7年(1836)の約10年をかけてその事業を完成させた。	

28	歎異抄聞記	1冊
	紙本印刷	明治42年(1909)
	大谷大学図書館蔵	
	高倉学寮に学んだ学僧・妙音院了祥(1788～1842、三河国満徳寺)の著作。了祥は厳密な実証主義に基いて研究をすすめた。『歎異抄』が親鸞門弟・河和田唯円の作と推定し、現在も定説となっている。	

29	香山院龍温像	1幅
	絹本着色	大正3年(1914)
	第15代講師・樋口龍温(1800～1885、京都円光寺)の肖像。元治2年(1865)講師に任じられた。12歳で六経・論語・孟子などを読み、ほぼ理解したという。明治維新に際して東本願寺学寮を率いる立場で活躍。仏法擁護の活動とキリスト教研究を行った。	

30	上首寮日記	1冊（5冊のうち）
	紙本墨書	文政6年(1823)～明治5年(1872)
	キリスト教の急速な浸透や廃仏毀釈の流れのなか、それらに対応するためにキリスト教などを研究する場として慶応4年(1868)に開設されたのが護法場である。展示箇所には学寮敷地外にある越中国井波瑞泉寺の京都屋敷を借用して設置されたことが記される。	

31	護法場随筆反古類集冊	1冊
	紙本墨書	明治元年(1868)
	大谷大学図書館蔵	
	護法場開設に至る門主の直命や、その意義を説いた演説の草稿などを記す。香山院龍温の筆。演説の中で龍温は、「天文外曆者」「天主耶穌の邪徒」などと向きあうため、真宗・仏教学以外の学問(外学)の研究と教育を行う必要があると説いている。	

32	護法場規定並規則（『明治初期東本願寺雜記』）	1冊
	紙本墨書	明治時代(19世紀)
	大谷大学図書館蔵	
	護法場の学科目。国学・儒学・天学(天文地理や数学、暦学)・洋学(キリスト教の教義と歴史)という四つの外学が教授された。仏教外からの知見	

22	易行院法海像	1幅
	絹本着色	明治～大正時代(19～20世紀)
	第8代講師・法海(1768～1834、肥後国光徳寺)の肖像。文政11年(1828)講師に任じられた。彼が誕生した豊後国日田長福寺の学寮は、幕末の儒学者広瀬淡窓(1782～1856)を輩出するなど、宗派内外の学問興隆に寄与した寺院である。	

23	雲華院大含像	1幅
	絹本着色	明治～大正時代(19～20世紀)
	第9代講師・大含(1773～1850、豊前国正行寺)の肖像。天保5年(1834)講師に任命される。学寮や諸国に赴いての講演をおこない、教学研鑽・布教に尽力した。書画に優れ、頼山陽や広瀬淡窓ら文人・学者とも親交があった。	